

【先進医療A】
1年間(令和5年7月1日～令和6年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等

先	—	1	—	2
6	.	1	2	.
				5

告示番号	技術名	実施医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和4年7月～令和6年 6月までの実績 (実施可能であるすべての 医療機関の実績)※
4	末梢血単核球移植による血管再生治療	三重大学医学部附属病院	患者の病変の状態が比較的安定していたため	今後も患者の病変の様子を注意深く観察していく。	0件
9	糖鎖ナノテクノロジーを用いた高感度ウイルス検査	医療法人松寿会 天保山内科	新型コロナウイルスの流行が継続し、またインフルエンザとの同時感染の疑いがあったときは、抗原検査でなんとか乗り切った。患者数が多く、時間的制約があったためインフルエンザだけをPCRで測定して確定させる時間的余裕がなかったため、院内での検査を行わなかった。	唾液を用いたインフルエンザAとBの体外診断薬はまだ国の認可を受けたものはないが、インフルエンザA型とB型および新型コロナを同時に検査する認可を受けたキットが存在するので、新型コロナ禍が収まるまではこの認可キットを用いて検査を行う予定である。今後新型コロナウイルスの検査が必要なく、インフルエンザを唾液を検体として検査する必要が生じたときは、この検査法を使用する予定である。	0件
		埼玉医科大学病院	対象となるインフルエンザ患者の流行が小規模にとどまり、本検査の適応となる入院患者、もしくは合併症を伴う患者が皆無であった。さらに、新型コロナウイルスの流行がまだ継続しており、新型コロナウイルスを含む多項目同時核酸検査(FilmArray)によるインフルエンザウイルスの同時検出が汎用されていることから、本検査のニーズは限定的であったと考える。	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、インフルエンザの流行について、いまま予測が困難な状況である。引き続き、いつでも診療ニーズに対応できるよう、体制維持に努めたいと考えている。	
		鹿児島大学病院	インフルエンザの流行はあったが、インフルエンザによる入院患者がなく検査の実施事例がなかったため	今シーズン以降、流行に応じて実施する予定	
		真生会富山病院	検査技師の人数が不足しており、実施することができなかった。	技師の人員を補充できず、再開の見込みが立たず、令和5年12月7日付で取り下げた。	
		浜松医療センター	スティックスバイオテックから診断試薬としてSGNP nCoV/Flu PCR 検出キットが発売されたため。	SGNP nCoV/Flu PCR 検出キットへの移行が検討される。	
26	血中循環腫瘍DNAを用いた微小残存病変量の測定	慶應義塾大学病院	慶應義塾大学医学部倫理委員会承認後、施設内の検査の流れ、患者登録手順などの調整に時間を要し、2024年6月より登録を開始したため当該期間の登録例数は0例であった。	登録開始後、すでに2例が登録されており、今後さらなる登録患者増加が見込まれている。	-

※「-」は昨年度未実施の医療技術

【先進医療B】
1年間(令和5年7月1日～令和6年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和4年7月～令和6年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)※
2	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	本試験は2020年5月に症例登録期間が終了しているため。	該当しない。	0件
4	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	杏林大学医学部付属病院	2022年4月に患者登録を終了した。本報告期間において、当院の「保険外併用療養費の対象患者」は治療終了などの理由によりいない。	当院では保険外併用療養費の対象患者の治療をすべて終了し、現在追跡期間中である。また本試験は2022年4月に患者登録を終了している。	5件
11	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	九州大学病院	予定されていた被験者登録、自己末梢血幹細胞移植および観察期間も完了したため。	現在、データ固定、および総括報告書作成を進めている。	1件
18	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	東京医科大学病院	当試験に該当する症例がなかったため。	病院ホームページや広報誌への掲載を増やすなどして、患者さんへの周知徹底を図る。	1件
20	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター	症例登録期間終了となったため	現在、総括報告書作成中である。	4件
22	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限る。)	国立循環器病研究センター	登録期間が終了したため	登録期間は終了しているため、該当なし。	0件
25	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(非小細胞肺癌がん、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	国立がん研究センター中央病院	2022年3月に症例登録が終了したため	該当しない。	0件
26	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立循環器病研究センター	登録期間が終了したため該当なし	該当しない。	7件
28	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	本先進医療で用いる特定細胞加工物を製造した企業(株式会社テラ)が令和4年8月に倒産したことに伴い、患者登録を一時中断していたため。	新たな受託先を選定し、TIL製造の技術移転が終了したため、患者登録を進める。	0件
32	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	横浜市立大学附属病院	本医療技術に適切な症例がみられなかったため。	各実施機関の近隣の医療機関に本医療技術を周知するとともに、学会等による研究者間の交流を通じて広く患者紹介を呼びかけ、症例の集積に努める予定である。	1件
39	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	神戸大学医学部附属病院	該当するARDS患者が入室しなかったため。	多施設研究とする。また適応を拡大することも考えている。	0件

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和4年7月～令和5年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医療機関の実績)※
49	生体肝移植術 切除が不可能な転移性肝がん(大腸がんから転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。)	京都大学医学部附属病院	候補症例として複数件紹介はされているものの、肝移植の適応基準に該当せず、登録には至っていない。	<p>外科学領域、消化器内科領域、移植外科領域に関する全国学会で本臨床試験に関する発表を、ランチョンセミナーも含めて積極的に行っているところである。</p> <p>今後は、肝胆膵領域や移植関連の学会だけでなく、大腸癌の学会や内科系の学会にも積極的に参加し、JCOGの班会議、医師会主催の研究会など、可能な限り発表の機会を利用して、周知活動を続けていく。</p> <p>なお、2024年6月のASCO(国際腫瘍学会)において、切除不能大腸癌肝転移に対して肝移植が化学療法より有意に予後を改善したことが、多施設共同研究・RCTの結果として報告され、主に腫瘍内科領域に大きなインパクトを与えている。この発表を契機に、腫瘍内科から問い合わせが相次いでいるところであり、今後は症例の紹介が増えることが期待される。</p>	0件
51	経皮的前立腺がんマイクロ波焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	候補患者は複数名いたが、適格基準に合致しない症例や、適格基準に合致するが患者の手術希望の日程等により報告期間内(2024年5月1日～2024年6月30日)では0件だった。	現在、実施予定症例があり、8月中には実施見込みである。今後の症例登録状況により、泌尿器科ホームページで被験者募集の掲示や、関連病院へ先進医療の情報提供を行い、紹介受診などの協力を得ることを検討する。	-
52	アルゴンプラズマ高周波焼灼・凝固療法 切除が不可能な食道表在がん	北海道大学病院	先進医療技術審査部会での承認が得られ試験開始が可能となったのは2024年5月であり、実質上の組入期間は短く、当該期間においては、該当する患者がいなかったため。	本先進医療ならびに臨床試験が当施設において行われている旨を、関連施設に継続的かつ反復して周知し、該当患者の集積を図る。	-
53	脂肪組織由来の多系統前駆細胞を用いた歯周組織再生療法 重度歯周炎(従来の歯周組織再生療法ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	大阪大学歯学部附属病院	本年は6月1日から先進医療を開始したが、実施責任者および実施者の変更や追加があり、関連する文書の改訂に時間を要した。また、東北大学病院での先進医療実施に向けて、東北病院の担当者との打ち合わせにも時間を要した。上記の2点の理由から、現時点では実施件数が0件である。	現在、当院で上記の基準に適合する患者のリクルートを行い、現時点では、3名の患者に対して、本医療の内容説明を行い、今後、同意取得を予定している。2024年度には、上記3名の患者に対して、脂肪組織採取を行い、脂肪組織由来多系統前駆細胞の単離を行い、同細胞の移植を完了する予定である。また、東北大学病院を協力医療機関として登録するための臨床研究実施計画書の変更等を特定認定再生医療等委員会に審査依頼する準備を進めている。	-

※「-」は昨年度未実施の医療技術